

R2 校内研修資料 「対話的な学び」実践事例リスト ～対話と発表はワンセットで～

本校で取り組んでいるユニット型研修の授業で用いられた「対話的な学び」の場面・手法をリストアップしました。

それぞれの手法には教科名を記載していますが、ほとんどの実践は他教科においても十分に応用可能なものです。

これらの事例はあくまで「手法」であり、授業づくりにおいては「目的」が重要であることはいうまでもありません。「目的・課題」の達成に適した「対話の手法」を選択することで、生徒たちの学びはいつそう深まることと思います。

また、**対話的な学びが効果的に機能している授業には「あとで発表することを前提に対話をしている」という共通点**が見られます。

生徒たちは単にペアや少人数で話し合うだけでなく、**あとで発表をしなければならない状況に置かれると、思考が働き、情報を整理し、自分の考えをもち、他者にわかりやすく伝える工夫をしようと主体的に考え始め、当事者意識をもって学習しよう**とします。私たち教員も、研究協議のあとで発表があるのとならないのでは、協議に向かう姿勢が違いますよね。

「対話は発表（アウトプット）とセットで行う」ことで、授業の中に対話場面を設定する意義・必然性が高まります。

これらの実践例が参考となり、先生方の授業づくりの幅が広がり、これまで以上に「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりにつながれば幸いです。



	対話的な場面・手法	期待できる効果	感染症防止の留意点・メモ等
1	文字情報(作品へのコメント)で交流 【国語】短歌・俳句の鑑賞を、ワークシートで記入。班で回し読み、コメントを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の感想に、もっといろいろな人の鑑賞を見たいとコメント有り。コメントを書いてもらうこともうれしいようである。→書く意欲UPに繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> ノートやプリント回しは危険？(接触感染の恐れがある場合)→手洗い・うがいの徹底
2	ジグソー法で情報交換 【国語】漢文の授業 ジグソー法の活用。班で分担して情報収集し、自分の班に戻って情報を伝達する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の得た情報を班員に伝える活動により、多くの対話を生み出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 対面の距離の間隔を広くとる班の作り方。
3	考え、発言したくなる発問の工夫 【社会】多面的な視点からの発問(例、経済と感染症対策のどちらを優先させるかなど)を行う。自分の違う見方に気付く→考え方を広げる、深める。	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは違うものの見方に気付く。 社会に対する感性が磨かれる。 多面的な考えが身につく 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動時の机の向き。

	対話的な場面・手法	期待できる効果	感染症防止の留意点・メモ等
4	ランキングづくり 【社会】明治維新。「近代国家づくりに効果的だった政策ランキング」を作成する活動。 個人→班活動	・既習事項の復習。対話しながら価値づけを行うことができる。	・ネームカードを黒板に貼らせるときの生徒の導線を一方通行にするなど配慮した。
5	自分の考えをわかりやすく「書いて」伝える 【数学】課題に対する考えや説明を、ノートやプリントに記述。ペアや班で回し読み、評価やコメントを書く。	・書く力を身につける。 ①短く②わかりやすく③専門用語を使用して	・ノートやプリント回しは危険？（接触感染の恐れがある場合）→手洗い・うがいの徹底
6	既習事項を確認しあう 【数学】空間図形。小学校の既習事項を生徒間、教員間でやり取りしながら確認。	・小学校の既習事項の確認をすることで、9年間のつながりがある学びを意識する。	・子どもに教具を触らせない工夫。教師が実演して見せる形。
7	感染症対策を踏まえた実験① 【理科】グループ学習を短時間で行う。 実験道具の準備は教師が事前に行い、実験の核となる部分だけ生徒に操作させる。密になる時間を短縮する。「においをかく」など、映像等では代替できない部分だけは実験を行う。	・最低限の体験的な学び。	・理科室を使わない。 ・4人組で向かい合って話し合わない。飛沫感染防止。
8	感染症対策を踏まえた実験② 【理科】実験を行う時は、1クラスを「実験グループ」「待機グループ」に分け、交互に行う。	・実験に個々人が集中できるようになった。	・ホワイトボードの活用が効果的。 ・何を書いていくのかが今後重要になる。
9	短時間でテンポよく交流 【英語】座席を一つずつずらしてコミュニケーション活動。 1分程度の短い対話やコミュニケーション活動を行った後、座席を前後に移動し、別の生徒と対話をする。これを数回繰り返す。	・テンポよく様々な友だちとコミュニケーションを行うことができる。 ・密を避けながら多くの生徒とコミュニケーションを図り、様々な表現方法・考え方にふれることができる。	・短時間で行う。 ・相手との距離感・向きに配慮。
10	地域の方と英会話 【英語】あさなえ英会話 地域の方と英語で交流する。自己紹介や好きなものの意見交換、ディベートなど。	・地域の方との交流が深まる。 ・日本語での会話とは違う雰囲気での交流ができる。 ・英語の表現力を伸ばしたいという意欲の向上につながる。	・地域の方と生徒との距離感。

	対話的な場面・手法	期待できる効果	感染症防止の留意点・メモ等
11	<p>全員が当事者意識をもって活動 【音楽】合唱…全員が選曲委員 クラスで歌いたい曲を選び、プレゼンを行う。 生徒全員が合唱コンクール選曲の当事者となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動。 ・当事者意識をもって学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子をやや内向きに。
12	<p>文字で交流 【美術】友だちの作品を見て感想を書く、参考にする。 ミングリング（自由に見て回る）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を通しての対話。自分の考えを整理して相手に伝える。相手からのコメントをじっくり読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間のペアワーク ・半径2～3mは離れる ・対面ではなく、多角的に机を向ける ・時間設定をして移動する
13	<p>生徒が先生 【保体】班活動の際、ミニティーチャー（ミニT）をつくり、リーダーとフォロワーの関係をつくることで、対話のしやすい場をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを指導したり、助言したりすることで、リーダーの力をつける。また、フォロワーの協力姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニTに運営させることで、教師は感染症防止の視点で授業を見る余裕が生まれる。
14	<p>地域とのつながり 【技術】あさなえ木工教室 実習を通して、地域の方と対話・交流しながら、技能を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木工の専門的スキルに長けた地域の方から直接指導していただくことができる。 ・その都度、技能や取組姿勢を評価することで自己肯定感を高める活動になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数での授業 ・マスクの着用
15	<p>視点を明確にして議論する 【保体】情報を整理しよう 選択肢や情報を提示し、「必要なもの（大切なもの）を選ぶ」「グループ別に分ける」「適切な順序に並べる」など、わかりやすい作業を提示することにより、根拠をもって対話ができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢を限定し、作業の条件を与えることで、全員が活動に関わりやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒どうし・他のグループとの距離間。 ・グループの机の向き。